

東京都立 多摩総合医療センター

発展する府中市に寄り添って

府中市医師会
会長 赤須 文彰



皆様こんにちは。府中市医師会長の赤須でございます。会長3期目を迎えました。

府中市は人口増加の一途をたどり、現在人口約二十六万人となっております。律令時代に武蔵国の国府が置かれた地であり、多摩川に沿って広がる緑の多い美しい街です。最近の府中駅回りの発展ぶりはめざましいものがあります。

府中に私の大好きな散歩道があります。競馬場東から始まってお瀧神社、東郷寺を経て車返しまで続く景色のよい崖線（ハケ）の道で、富士山や丹沢山塊が一望できます。いかだ道とも呼ばれております。

さて今年の十月には府中市医師会館が竣工致します。四年前に府中市に会館建設の申請を致しました。市の許可がなければ建て替えのできない地所だったので。ようやく申請の許可が下りてから会館建設特別委員会を立ち上げ、近隣の医師会館を視察して回りました。日本で屈指の設計事務所に設計を依頼することができ、非常に有能な建設会社に建築をお願いすることができました。自家発電を備え耐震化の整った三階建てで、隣りの府中公園の森を借景にした北面ガラス張りの建物です。医師会訪問看護ステーションを併設しております。紆余曲折ようやく竣工を十月に迎えることができました。十二月頃に内覧会を予定致しますので多数の皆様方にお越し頂きたくお願い申し上げます。

この新会館を拠点として今後さまざまな企画、会合、催しが行えます。大災害発生時はここを拠点としてDMAT、JMATに活躍してもらおうと思っております。また地域の皆様にも広く活用して頂けるようにしたいと思います。

多摩総合医療センターの先生方には府中市医師会が常日頃大変お世話になっております。府中市では毎年七月から九月までの三か月間特定健診が行われますが、府中市民四万人余が受診して参ります。そして色々な疾患が見つかりますが、肺がんや重症の疾患が見つかった場合は多摩総の先生方に紹介するのがほとんどです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

つい最近こういう症例がありました。当院かかりつけのDMの患者さんが動悸が激しくなり、榊原記念病院に受診したところ、重症の貧血ありとのことで当院に電話で逆紹介してきました。さっそく胃内視鏡施行したところ胃に出血を伴った進行性胃がんがあり、すぐに多摩総の消化器外科の当直の先生に電話でお願いしました。「すぐによこしてください。待ってます。」とこころよく言ってくれました。この患者さんは胃全摘しましたが、一命を取り止め、元気で2～3日前当院ににこにこしてやってきました。多摩総の先生、どうも有り難うございました。連携プレーがうまくいった症例だと思います。

今後も連携を密にしてやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



外科のご紹介



外科部長 森田 泰弘

平成29年4月1日付けで高西喜重郎部長の後任として、外科部長を拝命致しました。連携して頂いている近隣医師会・医療機関の先生方には、平素よりご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

外科は乳腺、上部消化管、下部消化管、肝胆膵、血管の5つの診療チームに分かれており、診療を行っています。その他にも腹腔鏡下ヘルニア根治手術や最近注目されている肥満減量手術なども行っています。

乳腺外科では昨年400例以上の症例数があり、乳腺専門医1名、認定医2名が中心となり診療をしております。温存手術だけでなく、形成外科とも連携し、乳房再建などの手術も施行しております。また化学療法は乳腺外科で行い、放射線治療は乳腺専門医の資格を有する放射線科医が担当し、当院での連続した治療が可能です。

消化器外科は食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肝胆膵と幅広く診療を行っており、胃、大腸は全国有数の症例数があります。腹腔鏡手術の比率は70%程度で、胃・大腸・肝臓の各分野において内視鏡外科学会技術認定医(総勢6名)を有し、安全な腹腔鏡手術を提供に努めております。また、来年より手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入される予定で、保険収載の可能性がある胃癌を中心に、鋭意準備中です。更に週に一度、消化器内科、消化器外科、放射線科合同で症例カンファレンスを各臓器別に開催し、個々の患者様に適した治療方法を検討しております。検査は主に消化器内科、東京都がん検診センターで施行されておりますが、特に胆膵領域では消化器内科にて超音波内視鏡、経口胆道内視鏡などが導入され、正確な癌の診断が可能となりました。

血管外科は腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞症などの動脈疾患、および下肢静脈瘤、深部静脈血栓症などの静脈疾患を扱っています。心臓血管外科専門医・指導医、胸部腹部ステントグラフト専門医・指導医を中心に、人工血管置換術、ステントグラフト内挿術なども数多く施行しており、ご高齢の患者様、合併症のある患者様にも治療ができるようになりました(図)。また下肢静脈瘤に対しラジオ波焼灼術も施行しており、日帰り手術が可能となっております。

肥満減量手術は2014年より保険収載となりましたが、施設基準が厳しく、東京都では当院を含めた2施設しか施行できません。当院では減量外科、内分泌代謝内科を軸に多職種から構成された肥満症治療チームがあり、効果を上げております。また糖尿病などの代謝異常に対してもすぐれた効果があり、今後も注目度が高い分野です(表)。

当科では最新の治療を積極的に取り入れており、患者様の多様な要望にできるだけ答えられるよう努力しております。多摩地区の救急医療も含め、地域医療に貢献できるよう邁進したいと存じますので、引き続きご指導、ご支援の程、宜しくお願ひ申し上げます。

図. 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術

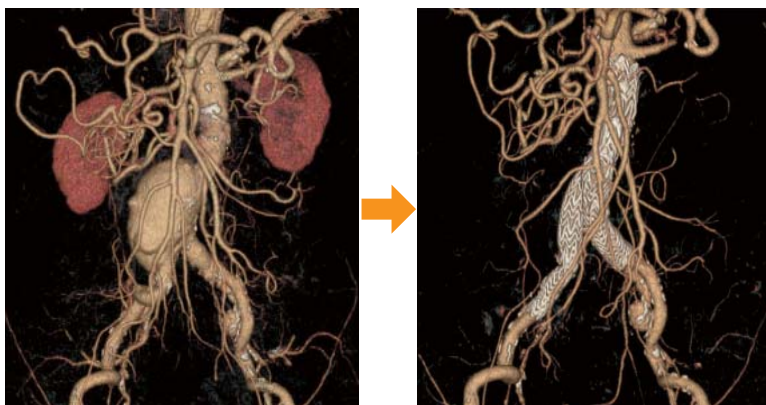


表. 減量手術(スリーブ状胃切除)の代謝異常に対する効果

Parameter	寛解か部分寛解 (治療薬剤不要)	改善 (必要薬剤減量)
2型糖尿病	56%	44%
脂質異常症	64%	36%
高血圧症	54%	46%
睡眠時無呼吸症	88% (治療器具不要)	12% (症状改善)

いずれの代謝障害に対しても、完全もしくは部分寛解(内科的治療が不要となった状態)が得られ、改善(薬剤減量可能な状態)の症例を含むと、全ての症例に効果が認められた。





3次元モデルにより肺温存が可能であった 胸腔鏡下肺区域切除症例

呼吸器外科 吉川 拓磨



近年、胸腔鏡による低侵襲手術の普及に伴い、大腸癌をはじめとして肺転移巣を積極的に外科的切除することにより、良好な治療成績が報告されていることから、転移性肺腫瘍に対する切除症例が増加しています。腫瘍の大きさ、部位により肺部分切除、肺区域切除、肺葉切除などの術式を選択しますが、肺は切除すればするほど、肺機能を犠牲にするので、根治性と肺機能温存を熟慮し、術式を決定する必要があります。その中でも肺区域切除は、根治性を保ちつつ、肺葉切除に比べ肺機能を温存することができ、患者のQuality of life (QOL)を維持させることができます。しかし、肺動静脈、気管支のバリエーションが増えるため、手術手技は難しくなります。そのため当科では、術前にCT画像から3次元(3D)画像を再構築するソフトを用いて、術前に肺動静脈、気管支の分枝の3Dモデルを構築し、手術のsimulationを行い、術中には構築した3D画像をnavigationすることで、安全、迅速、確実に肺区域切除を行っています。今回、当科で行っている術前simulationを用いて肺機能を温存できた胸腔鏡下肺区域切除症例を提示します。

【症例】63歳、男性

【既往歴】S状結腸癌に対し当院で腹腔鏡下S状結腸切除術施行。Stage III b。

【現病歴】S状結腸切除後、経過観察中に肺転移指摘され、化学療法施行した。左肺転移のみ残存のため、当科紹介となった。胸部CTでは左上葉胸膜直下に2か所、舌区に1か所、下葉S9/10に1か所転移巣を認めた(図1)。サルベージ手術目的に入院となった。

【術式決定】本症例のCT画像から3Dモデルを再構築した(図2)。上葉の2か所は部分切除で切除可能、舌区は舌区切除が必要と判断した。下葉S9/10の転移は、従来、多くの施設で底区切除が選択されることも多いが、底区切除を行うと左肺の半分近くを切除することになり、肺機能の犠牲が大きくなる。3DモデルからS9/10の区域切除で充分切除可能と判断し、S9/10区域切除を行う方針とした(図3)。

【術中所見】胸腔鏡下に左上葉部分切除+舌区切除+S9/10区域切除を行った(図4)。手術時間215分、出血量40gであった。

【術後経過】経過は良好で、術後6日目にドレーン抜去し、術後9日目に退院となった。病理結果は、全て結腸癌の肺転移であった。現在、外来経過観察中である。

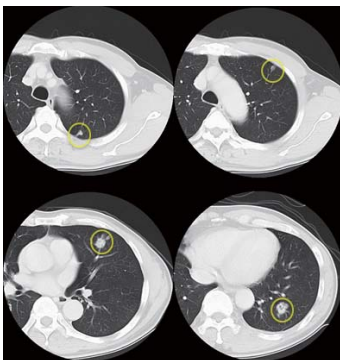


図1 胸部CT所見:左上葉に小结節2か所、舌区に結節、下葉S9/10に結節認める

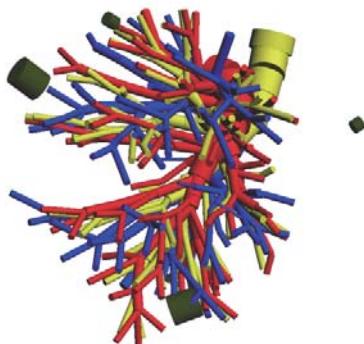


図2 本症例の3Dモデル:
●肺動脈 ●肺静脈 ●気管支 ●腫瘍

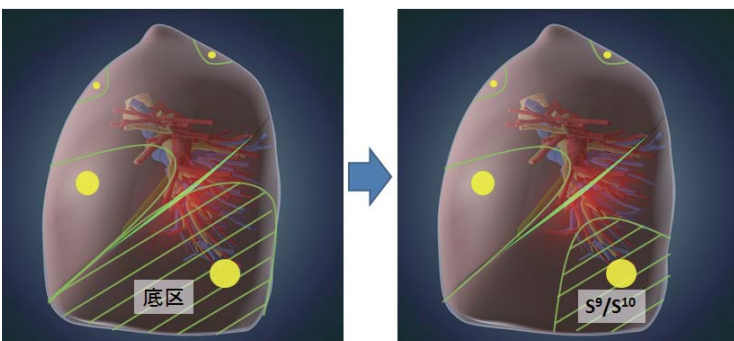
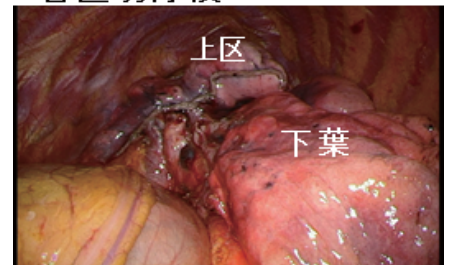
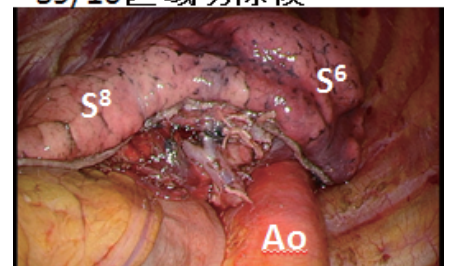


図3 術式の比較:底区切除をS9/10区域切除にすることで肺温存が可能となる

舌区切除後



S9/10区域切除後



Ao:大動脈

図4 術中所見



病院機能評価 最終結果報告を受けて

当院では、本年4月に病院機能評価の更新認定を取得しました。今回の審査では、「地域への情報発信と連携」を含め、ほぼ全ての領域・審査項目において高い評価を得ることができました。

今回の審査結果に満足することなく、今後とも総合診療基盤に基づく高度な医療を提供し、患者サービスの充実を図っていくとともに、地域の医療機関の皆様方と顔の見える連携を推し進め、地域住民の期待に応えてきたいと考えております。引き続きのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

人事異動

【採用】平成29年7月1日付 泌尿器科医員	杉原 亨
【採用】平成29年8月1日付 産婦人科医員	有山 悠乃
【退職】平成29年6月30日付 泌尿器科医員	佐藤 雄二郎
【退職】平成29年7月31日付 呼吸器外科医員	葭矢 健仁
産婦人科医員	稲垣 聖子

●● 各種講習会・勉強会のご案内(医療従事者向け) ●●

連携医交流会 平成29年9月22日(金)午後7時～午後9時 講堂フォレスト・職員ラウンジ
会費:4,000円 ※9月14日(木)までに医療連携担当までご連絡をお願いいたします。

第89回医療連携臨床懇話会 平成29年10月19日(木)午後7時～午後9時 4階401会議室

- 「当院で経験する透析患者の急性および慢性合併症と開業医に求められる救急対応」 腎臓内科
- 「透析導入患者の近年の動向と今後の見通し:DM腎症はすでに第一位でなく腎硬化症が高齢者CKDの最大要因である知られざる事実について」 腎臓内科

※演題等に変更がある場合がございます。詳細は別途ご案内いたします。

公開C P C 各日とも午後6時～午後7時 4階401会議室

平成29年9月21日(木)、平成29年10月19日(木)、平成29年11月16日(木)

●● 各種講習会・勉強会のご案内(患者さん向け) ●●

※参加無料、事前予約不要です

糖尿病講習会 (会場:都立多摩総合医療センター講堂フォレスト)

- 「糖尿病の内服薬」「糖尿病の運動療法」「嗜好品等について」
日時:平成29年9月20日(水)午後2時～午後4時
- 「メタボリック・シンドローム」「血液検査について」「動脈硬化と食事」
日時:平成29年10月18日(水)午後2時～午後4時
- 「糖尿病と高血圧」「糖尿病の入院について」「減塩方法の実際」
日時:平成29年11月15日(水)午後2時～午後4時

腎臓病講習会 (会場:都立多摩総合医療センター講堂フォレスト)

- 「慢性腎不全の病態と治療」「慢性腎不全の日常生活」「慢性腎不全の食事療法」
日時:平成29年10月24日(火)午後2時から午後4時

※詳細はホームページをご覧ください。

当院は原則として、**紹介予約制**です。
外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、
紹介状をお願い致します。

<電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL:042-323-9200

ご意見、ご投稿、お問い合わせは
医療連携担当(内線2171)まで

<FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

FAX:042-323-9205

緊急の場合…必ず事前にご連絡ください

代表電話:042-323-5111から、①平日の午前9時～午後5時は「〇〇科責任医師」、②午後5時以降、土曜日、日曜日及び祝祭日は「〇〇科の救急担当医」とお申し付けください。

※一部の診療科では、夜間・休日は専門医がおりませんので診療できない場合があります。

※受診が決まった場合は、患者さんに紹介状(診療情報提供書)をお渡しください。

東京都立多摩総合医療センター 〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29
TEL 042-323-5111(代表)

